2024年度
サンケイグループ
環境サイトレポート

MY DEAR GLOBE

SANKEI

(株)SANKEI・(株)ギャルドサンケイ

環境保全活動委員会　2024年12月 発行

サンケイグループの概要

本社工場

石薬師工場

□会社名　:株式会社SANKEI
□創立　　:昭和26年(1951年)8月15日
□資本金　:5000万円
□売上高　:28.9億円(2024年6月期)
□従業員　:102人
□所在地　:三重県鈴鹿市上野町字助町48番地
　　TEL:059-378-1243(代)
　　FAX:059-378-3718
　　URL:https://www.isu-sankei.co.jp
□ ISO9001認証取得:1999年8月
□ ISO14001認証取得:2000年7月
□ 新JISマーク表示認証取得:2007年6月

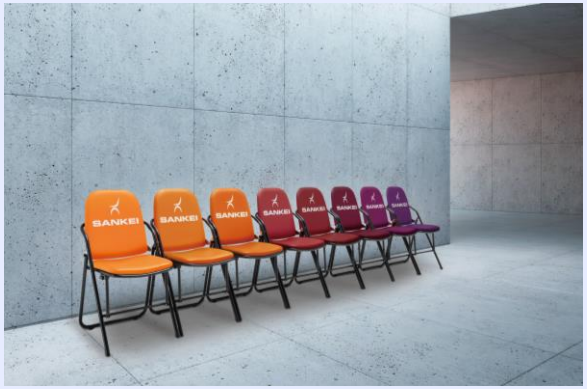
企画・開発棟

□会社名　:株式会社ギャルドサンケイ
□設立　　:平成3年(1991年)9月
□資本金　:1000万円
□所在地　:三重県鈴鹿市上野町字助町48番地
　　TEL:059-378-1298(代)
　　FAX:059-378-3612

製品紹介

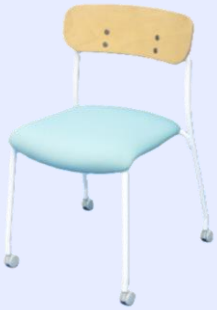
いつでも、どこでも手軽に使用することができる
簡便さが魅力の折りたたみチェアを豊富に
ラインナップしています。

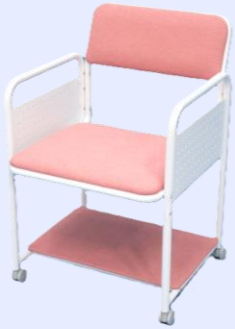
折りたたみチェア



多目的チェア

オフィスにおける打合せ・会議や、各種施設での
レセプションなどでは、その目的や規模に応じた
最適な会場設営が可能です。





スツール

経営方針および環境方針

経営方針

私たちはお客様に満足される商品を、積極的に創ることにより、
社員の生活向上と、社会への貢献をめざします。

品質／環境宣言

私たちサンケイグループは、商品の開発、設計、製造、販売、廃棄の活動が、地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、地球環境保全への貢献に徹し、お客様に満足して頂ける商品を継続的に提供ができるように、全社員の技術力の向上と健全なる成長を目指します。

品質／環境方針

私たちは、特に次の項目について優先的に活動し、品質向上、環境保全
及び汚染予防に取組み、社会へ貢献します。

1．品質／環境関連の順守義務及び適用される要求事項を遵守し、社会的責任を遂行します。
2．品質／環境の両面を追求し、ライフサイクルアセスメントを用いた製品の開発、設計、製造、販売を推進し、品質の向上及び環境負荷の低減と汚染の予防に努めます。
3．持続的発展を可能とする社会の実現を目指し、「MY DEAR GLOBE」の理念のもと、行動指針RE5を実行し、環境を保護します。
4．品質／環境方針に基づき、品質目標、環境目標を設定し、目標達成のためにフレーム化し、PDCAサイクルを効率的に回すことで、品質／環境パフォーマンスを向上させ、継続的に改善します。
5．品質／環境方針が、当社の目的、事業活動及び状況に対して、適切性を持続するため、年１回見直しをします。

ＳＤＧｓへの取り組み

弊社は事業活動を通してSDGsの達成に協力しています。

弊社の関連項目
7エネルギー削減
8経済成長
12再生素材の利用推進
13CO2排出量削減
14排水の適正処理
15合法木材の利用推進

SDGs
(Sustainable Development Goals)
持続可能な開発目標

2015年9月の国連総会で採択された
2030年に向けた具体的行動指針

環境目的・目標

環境目的項目 （過去3年間実績平均値）		2024年度（第74期）達成目標	2025年度（第75期）達成目標	2026年度（第76期）達成目標
1）廃棄物の減量化				
廃粉体塗料	廃棄量（4,765kg） 原単位　10.1　g/脚	−5% （9.6g/脚）	−5% （9.6g/脚）	−5% （9.6g/脚）
一般廃棄物	廃棄量（14,000kg） 原単位　29.7 g/脚	−5% （28.2g/脚）	−5% （28.2g/脚）	−5% （28.2g/脚）
産業廃棄物	廃棄量（48187kg） 原単位　102.1　g/脚	−5% （97.0g/脚）	−5% （97.0g/脚）	−5% （97.0g/脚）
2）再生資源化率の向上				
上記廃棄物のサーマル及びマテリアルリサイクル化を推進する。	リサイクル率： 100．0%	100%維持	100%維持	100%維持
3）資源の有効利用				
金属屑（鉄＋アルミ）の低減	排出量（15537kg） 原単位　32.9g/脚	−2% （32.3g/脚）	−2% （32.3g/脚）	−2% （32.3g/脚）

環境目的・目標

環境目的項目 （過去3年間実績平均値）		2024年度（第74期）達成目標	2025年度（第75期）達成目標	2026年度（第76期）達成目標
4）CO2排出量の見える化				
省エネルギー化によるCO2排出量の低減	生産活動排出量 628.7 t	−2%（616tCO2）	−2%（616tCO2）	−2%（616tCO2）
	企画開発活動排出量 13．0 t	−2%（12.8tCO2）	−2%（12.8tCO2）	−2%（12.8tCO2）
	営業活動排出量 21．1t	−2%（20.7tCO2）	−2%（20.7tCO2）	−2%（20.7tCO2）
省エネルギー化による電力使用量の低減	生産活動使用量 原単位 1.6139kWh/脚	−5%（1.3186kWh）	−5%（1．3186kWh）	−5%（1．3186kWh）
5）環境対応商品の拡充（LCAを用いた商品）				
製品販売比率	新基準に見直し	60%	61%	62%
製品構成比率	新基準に見直し	73%	74%	75%

環境目的・目標

※達成度は年度目標に対するもの
黒文字:100%以上　青文字:90%以上　赤文字:90%未満

環境目的項目 （2023年度目標）		2023年度(第73期) 達成度(実績)	コメント
1)廃棄物の減量化			
廃粉体塗料	廃棄量 5%削減(2020年度実績比)	78.7% (8.9g/脚)	吹き捨ての塗装色が多く 廃棄量が増え、目標を達成できなかった。 来期は原単位見直しにより、目標達成を目指す。
一般廃棄物	廃棄量 5%削減(2020年度実績比)	93.0% (33.0g/脚)	分別、古紙リサイクルなどを進めていたが目標を達成できなかった。来期も引き続き、分別の徹底、古紙類のリサイクルに取り組む
産業廃棄物	廃棄量 5%削減(2020年度実績比)	75.7% (115.8g/脚)	目標を達成できなかった。 来期は、プラスチック類のリサイクルルートの開拓と廃棄量の削減、減容化などを進める。
2)再生資源化率の向上			
上記廃棄物のサーマル及びマテリアルリサイクル化を推進する。	リサイクル率 100%維持	100.0% (100.0%)	全ての廃棄物について、サーマルリサイクル以上の処理ルートが確保でき、ゼロエミッションを達成して、継続している。今後も、引き続き排出量の更なる削減に取組んでいく。
3)資源の有効利用			
金属屑(鉄＋アルミ)の低減	排出量 2%削減(2020年度実績比)	106.7% (31.4g/脚)	目標を達成できた。

環境目的・目標

※達成度は年度目標に対するもの
黒文字：100%以上　青文字：90%以上　赤文字：90%未満

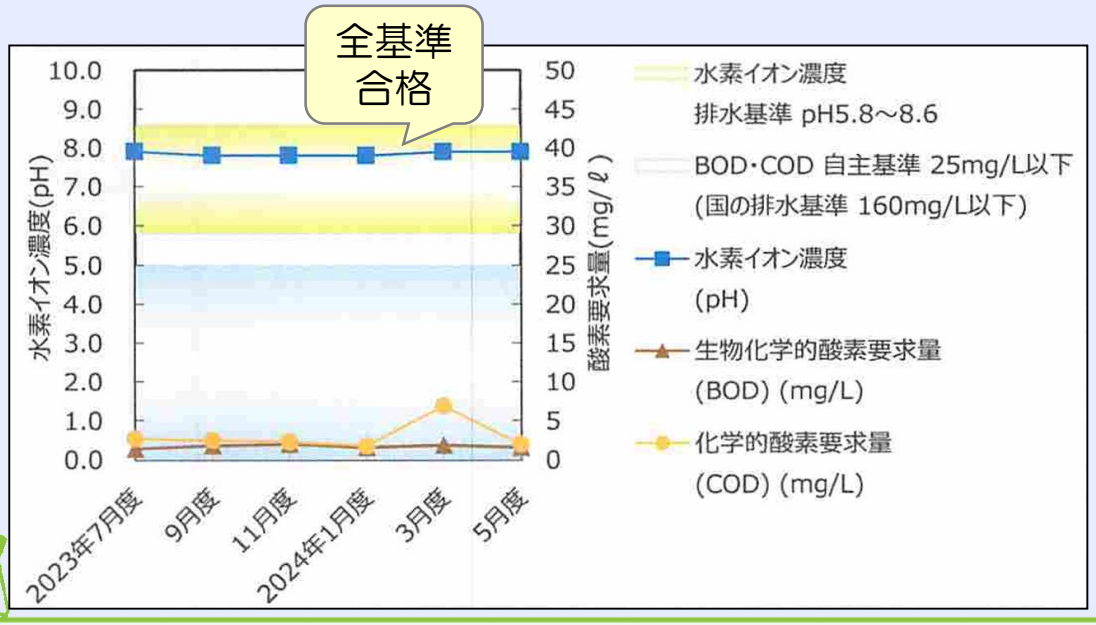
環境目的項目 （2023年度目標）		2023年度（第73期）達成度（実績）	コメント
4）CO2排出量の見える化			
省エネルギー化によるCO2排出量の低減	本社工場排出量 2%削減（2020年度比）	92.4% （683.3tCO2）	目標を達成できなかった。 昨年度は目標を達成していたが、今期は生産量も順調に増加したこともあり、やや目標未達となった。
	企画開発棟排出量 2%削減（2020年度比）	117.2% （20.3tCO2）	目標を達成している。ガソリン消費については一部ハイブリッド車を使用し低減している。
省エネルギー化による電力使用量の低減	本社工場使用量 5%削減（2020年度比）	80.0% （1.65kWh/脚）	目標を達成できなかった。 今後、照明のLED化、老朽変圧器のトップランナー化などを進めていく。
5）環境対応商品の拡充（LCAを用いた商品）			
製品販売比率	55%以上	100.2% （55.1%）	目標達成ができた。 来期から、環境対応製品の定義を変更して取り組んで行く。
製品構成比率	78%以上	96.5% （75.3%）	やや目標に未達であった。 来期から環境対応製品の定義を変更して取り組んで行く。

製造段階における環境配慮

製造段階では、材料やエネルギーの無駄のない利用、排気や排水中の汚染物質の低減、発生した廃棄物の再利用などの取り組みを行っています。

排水

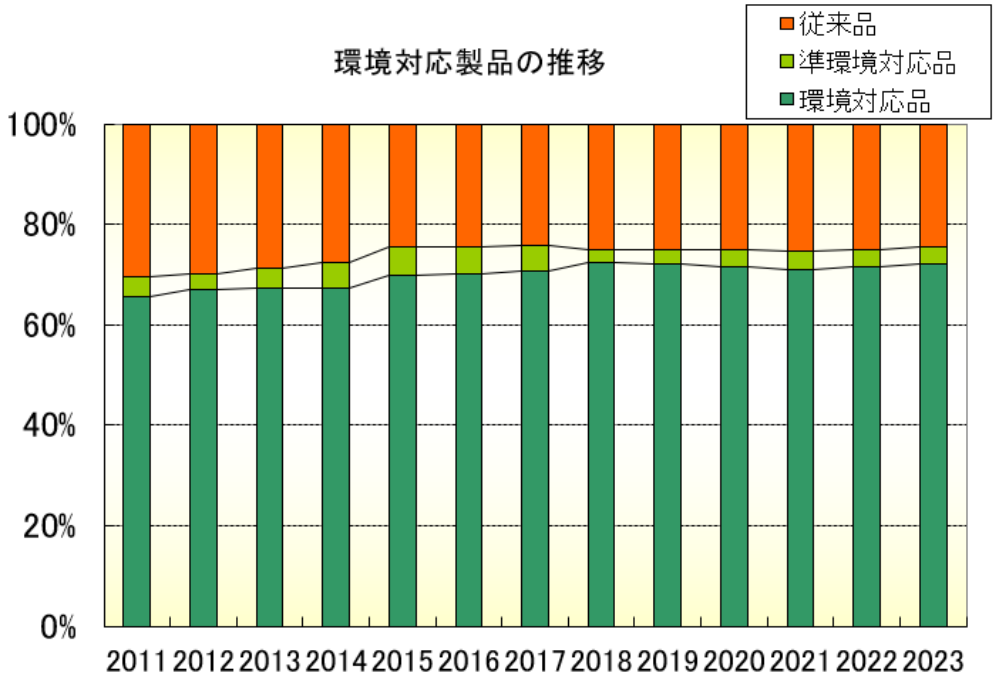
弊社で発生する排水は、主に塗装前処理工程から出ており、工場敷地内にある排水処理施設で浄化してから放流しています。放流に際しては、法律制定基準より厳しい、自主基準値を設定して管理しています。
又、定期的な水質評価を実施してチェックを怠らず、水使用量の低減に努めています。



製造段階における環境配慮

環境配慮型製品の比率向上

持続可能な社会の実現に向けて、様々な切り口から環境に配慮した
製品を積極的に開発・商品化を図っています。



環境対応品

部品交換の容易な製品

（旧エコマーク分類№68または、その同等品） かつ、下記の準環境対応品の条件も満たすもの。

準環境対応品

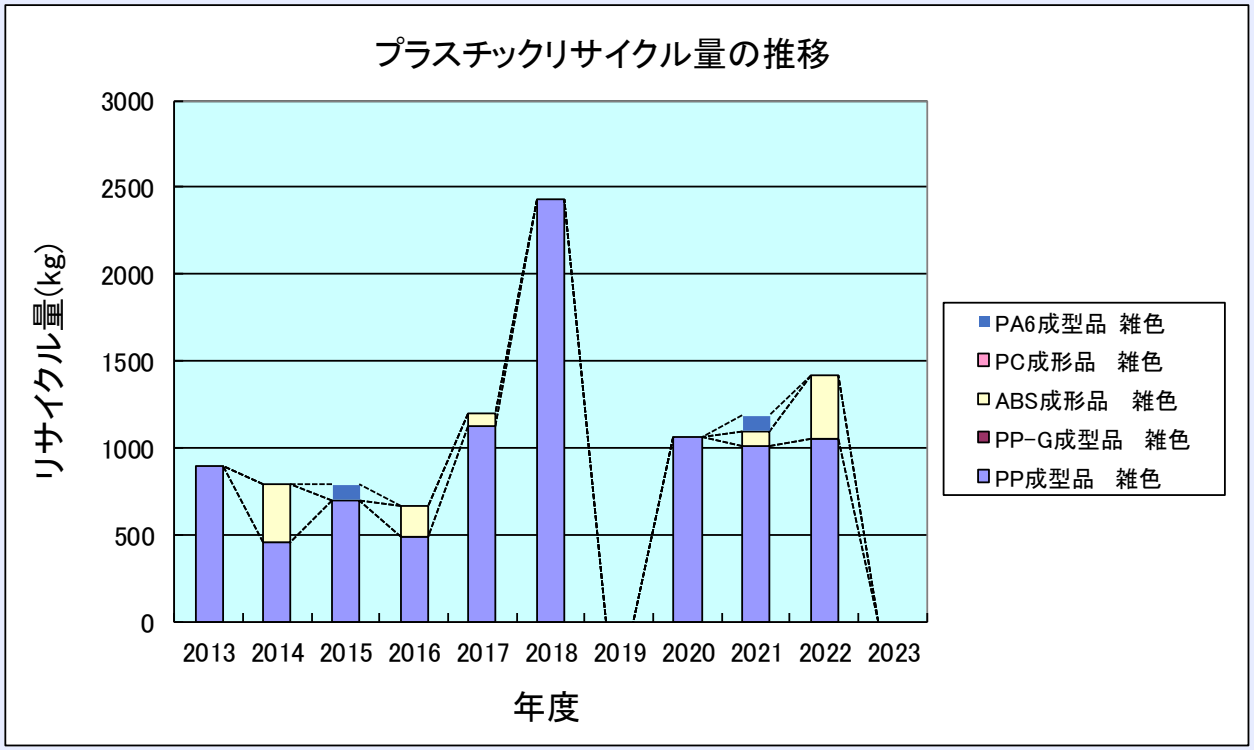
再生材料、再生容易な材料（PP等）を使用している製品。

各種法規制への対応

有害物質を含む違法な原料を使用せず
各環境基準数値へ対応した製品作りを行っています。

プラスチックリサイクル

不要になったプラスチック製の部品や廃材は、
マテリアルリサイクルをしています。
対象は主にポリプロピレン(PP)、ABSです。
原材料ごとに専用かごを設置し、分別回収を行っています。



廃棄物の適正処理

廃棄物処理法に基づき適正な業者を選定し、廃棄物の最終処分までの流れを
把握しており、排出事業者責任を果たしています。
適正な処理とともに廃棄物の再資源化に努力しています。
また、県条例に基づく、処分場の現地確認を、年１回実施して、監視を行っています。

（抜粋） 三重県産業廃棄物の適正な処理の推進に関する条例

第7条　事業者は、産業廃棄物の処分を委託しようとする時は、規則で定めるところにより、委託業者が、当該産業廃棄物を処分する能力を現に有していることを確認するとともに、規則で定める事項を記録する。確認をした日から一年を経過した日以後引き続き、委託する場合も同様とする。

三重県産業廃棄物の適正な処理の推進に関する条例施行規則

第3条　条例7条第一項の規定による確認は、次の各号のいずれかの方法により行うものとし、当該確認した事項の記録は五年間保存するものとする。

一　自ら実地に調査し、確認すること。

二　自らの責任において、実地に調査している者から聴取し、及び確認すること。

サーマルリサイクル　①

＜現状の処理ルート＞

廃プラスチック→焼却（サーマルリサイクル）

真ん中の箱（コンテナ）

業者で破砕、

選別処理（鈴鹿市）

燃料用として、

圧縮・梱包（鈴鹿市）

北海道・苫小牧へ運搬し、

発電所での燃料として使用

（サーマルリサイクル）

▲ 苫小牧発電所

写真は、㈱サニックスHPから引用

サーマルリサイクル　②

＜現状の処理ルート＞

廃粉体塗料：焼却（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）

廃油：焼却（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）→微量の燃えがら（1％未満）を埋立

マテリアルリサイクル ①

＜現状の処理ルート＞

汚泥（塗装前処理水）→社内中間処理（脱水）
→混練造粒→残渣を路盤材に利用（ﾏﾃﾘｱﾙﾘｻｲｸﾙ）

残渣を、

人工骨材・埋め戻し材として利用

木くず（パレット等）→破砕→パルプ原料などに再利用（ﾏﾃﾘｱﾙﾘｻｲｸﾙ）

チップを、パルプ原料、ボード、燃料等に再資源化

マテリアルリサイクル ②

廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ混合物（金属を含むもの）　→焼却（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）→燃えがら（ﾏﾃﾘｱﾙﾘｻｲｸﾙ）

焼却処理

焼却により

可燃物は全体量の５％以下に減量される

熱回収（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）

金属類は選別し、有価物として売却

燃えがらは焙焼炉で無害化処理し、

上層路盤材（アスファルト骨材）として利用

一般廃棄物（事業系）

＜現状の処理ルート＞　可燃物（一般廃棄物）→焼却（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）

燃焼を２４時間監視

燃焼する際のエネルギーで発電している。

鈴鹿市清掃センター

プラスチックリサイクル

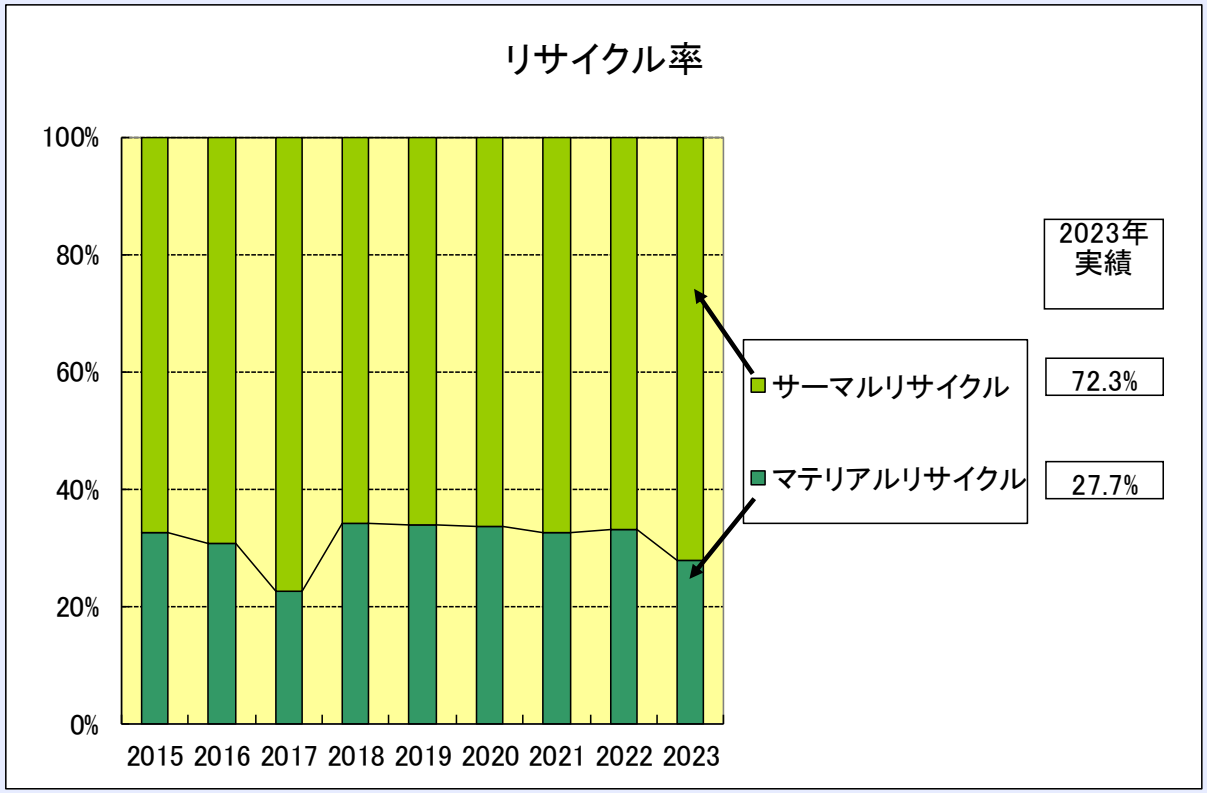
＜現状の処理ルート＞

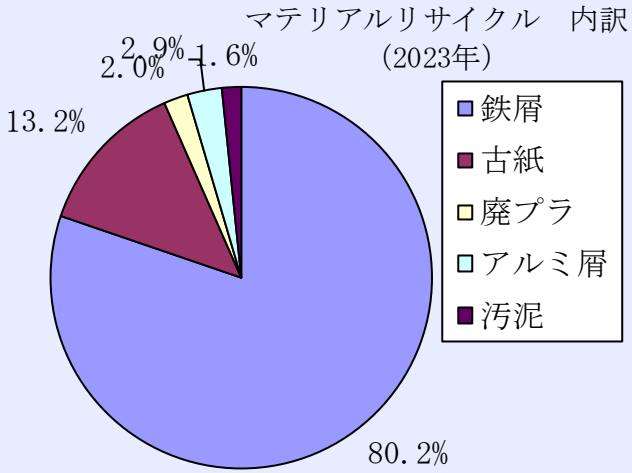
硬質ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類→粉砕→ﾍﾟﾚｯﾄ化→樹脂原料として再利用（ﾏﾃﾘｱﾙﾘｻｲｸﾙ）

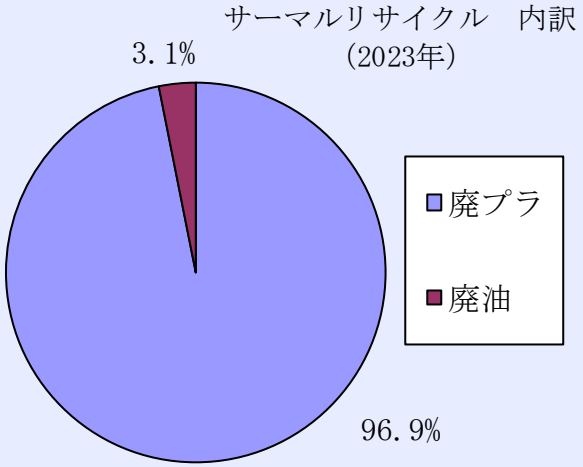
社内で分別を行い、有価で売却

ゼロエミッション

全ての廃棄物について、
サーマルリサイクル、またはマテリアルリサイクルを行い、
ゼロエミッションを達成しています。







教育・社会貢献活動

社会の一員として、地域の皆様との交流や
環境との共生・教育活動を行っています。

- 各種フェアや展示会への出展
- 工場見学の受け入れ
- インターンシップ受け入れ
- 外部での講演、事例発表
- 清掃作業
- 災害および緊急事態対応訓練

鈴鹿市ものづくり企業交流会

２０２３年１月２２日　鈴鹿ハンター

教育・社会貢献活動

工場周辺：国道一号線沿線のごみ拾い

2024年5月10日

収集した、ごみ

教育・社会貢献活動

社内でのサイトレポート発表

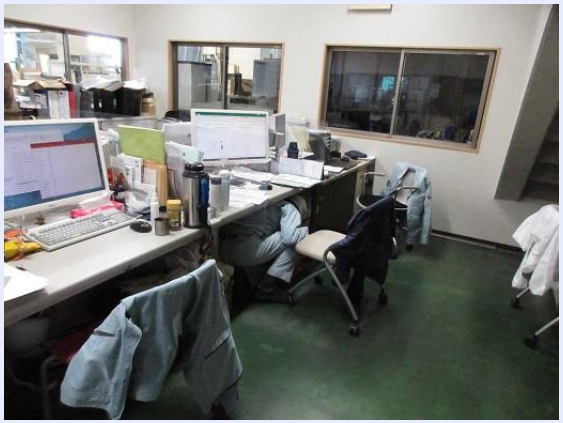
（社内QC発表会の場にて）

２０２２年１０月２１日

社内 SDGｓセミナー

同　２０２２年１０月２１日

教育・社会貢献活動



防災・減災　　当社での消防訓練（避難・消火）

2024年5月10日

	SANKEIグループ動向	主な環境法案	主な環境対応商品
1951	名古屋市中川区に三恵ブレーキ製作所設立。		
1955	三恵工業株式会社に商号変更、鋼製家具製造販売を定款に加える。		
1962	三重県鈴鹿市に工場移転。		
1963	操業開始。		
1967	日本工業規格（JIS）「鋼製事務用いす」表示許可工場となる。		
1968		大気汚染防止法	
1972	株式会社サンケイを設立。		
1983	名古屋通商産業局長賞を受賞。		
1991	株式会社ギャルドを設立。	リサイクル法	
1993	MY DEAR GLOBEを提唱。（親愛なる私たちの地球）	環境基本法	
1995		容器包装リサイクル法	
1996			CM01/04
1997	粉体塗装工場完成	新エネルギー利用等促進に関する法律	
1998		地球温暖化対策の推進に関する法律	CM02/SCF64
1999	国際品質保証規格ISO9001認証取得。（三恵工業）		CM10/11
2000	国際環境マネジメントシステムISO14001認証取得。（三恵工業・サンケイ・ギャルド）	グリーン購入法、循環型社会形成推進基本法	CM320/321 SCF65
2001		PRTR法、資源有効利用促進法、自動車Nox・PM法	
2002		RoHS指令（EU）	CM108/109
2003	鈴鹿市ごみ減量推進事業所に認定。	学校環境衛生基準改訂、建築基準法改訂、環境保全・環境教育推進基本法、個人情報保護法	
2004		学校環境衛生基準改訂	CM399
2005		大気汚染防止法改正(VOC)	
2006	鈴鹿市ごみ減量推進事業所表彰。	グリーン購入法改正（原木伐採合法）、省エネ法改正（荷主・運送）、地球温暖化対策推進法改正、廃棄物処理法施行令改正	
2007	新JISマーク表示認証取得「オフィス用イス」。 LCA日本フォーラム奨励賞受賞。	消費生活用製品安全法改正	CF67
2008		グリーン購入法一部変更	
2009	新ブランドHECMEC「HM01」が各賞を受賞。 第3回キッズデザイン賞（商業デザイン部門）を受賞。 2009年度グッドデザイン賞を受賞。 第6回エコプロダクツ大賞審査員長特別賞（奨励賞）を受賞。	グリーン購入法改正 省エネ法改正 地球温暖化対策推進法改正	HM01
2010	第4回キッズデザイン賞（ユニバーサルセーフティ部門）を受賞。	廃棄物処理法改正	
2011	三恵工業が意匠活用優良企業として特許庁長官表彰を受賞。		CM375/376

	SANKEIグループ動向	主な環境法案	主な環境対応商品
2012	三恵工業(株)が第1回みえ環境大賞(環境経営部門)を受賞。		
2013			CM104/105
2015	粉体塗装ライン改装工事完了。		CM550/397 SCF07
2016	株式会社ギャルドを株式会社ギャルドサンケイに社名変更。	グリーン購入法一部変更（オフィス家具判断基準）	
2017	石薬師工場完成。		CF80 CM100
2018	ISO9001/14001マニュアル2015年版へ移行。	グリーン購入法一部変更	
2019			CW01KK-MX
2020	品質マネジメントシステムISO9001を認証取得。（株式会社サンケイ・株式会社ギャルドサンケイ） 三恵工業株式会社が経済産業省による「地域未来牽引企業」に選定。 三恵工業株式会社が中小企業庁（経済産業省外局）による「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選定。		
2021		地球温暖化対策推進法改正 省エネルギー法改正 グリーン購入法一部改正	CF11 CM199 CM352
2022	三恵工業株式会社、株式会社サンケイを組織統合し、株式会社SANKEIに社名変更。	グリーン購入法一部変更・追加 地球温暖化対策推進法改正 省エネ法改正 ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ資源循環法施行	ノワール リベル リンク
2023	ユースエール認定企業に選定。	労働安全衛生法改正 気候変動適応法改正 大気汚染防止法改正 水質汚濁防止法改正	CFJ22 CF73/74 CM102
2024	石薬師工場に成型合板加工設備を導入。 「座ってイイッスPROJECT」始動。 マイナビバイトチェア発売。	改正クリーンウッド法	CM112・113 M-102・103

会社概要

■株式会社SANKEI
〒513-0017
三重県鈴鹿市上野町字助町48番地
TEL 059-378-0465（代）　FAX 059-378-3719

■株式会社SANKEI　石薬師工場
〒513-0023
三重県鈴鹿市河田町字丸山1215番地
TEL /FAX 059-374-1120

■株式会社ギャルドサンケイ
〒513-0017
三重県鈴鹿市上野町字助町48番地
TEL 059-378-1298　FAX 059-378-3612

みえ環境大賞 環境経営部門

LCA実施奨励賞

はばたく中小企業・小規模業者300社

地域未来牽引企業

SANKEI
www.isu-sankei.co.jp